

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
竹田 恵子
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
パフォーマンス・アート《S/N》(1994年初演)におけるジェンダー／セクシュアリティ、アイデンティティをめぐる実践についての研究
3. 助成額
500,000 円
4. 実施期間
2018年 7月 ～ 2020年 7月
5. 実施状況
2019年2月:初校到着 2019年7月30日:事業延長申請 2020年1月10日:事業延長申請 2020年5月30日:最終稿提出 2020年6月:再校到着、修正を行う 2020年6月15日:装丁最終打ち合わせ 2020年7月1日:念校到着。微修正を行う 2020年7月31日:出版
6. 事業成果と自己評価
<p>助成をいただいた書籍が7月31日に出版された。当該書籍の目的は、アーティスト・グループ「ダムタイプ (dumb type)」によるパフォーマンス・アート《S/N》(1994)が、アートがどのように社会と関係することができるのかという大きな問いのもと、マイノリティの人びとが自らのアイデンティティを公にする「カミング・アウト」(coming out)として創作されたという視点に立ち、《S/N》というカミング・アウトとしての「アート」が社会を変える手法としてどのように効果的に働くと考えられるのか明らかにすることである。</p> <p>対象のパフォーマンス・アートのなかで行われる「カミング・アウト」を行為として分析した結果、アイデンティティの提示の仕方が、日常的な相互行為で行われるよりもはるかに多様であり、豊かな生をいくつかのカテゴリーに縮減させ、固定化してしまうというカミング・アウトに伴う危険性に最大限配慮できていたことを指摘できた。さらに、《S/N》はアイデンティティを固定化したり制限したりせず、さらに同一的なコミュニティへの参入も強要しないが、一定の共同性で連帯すると</p>

いうことを示し、その契機を与えたのではないか。

また、《S/N》は自己という意味でのアイデンティティ（＝同一性）のみならず、世界の同一性を乗り越えていくという志向性も持っている。第3章の《S/N》構造分析の最終シーンで見られたように、既存の世界＝世界の同一性にコンティンジェントなものを差し挟み、新しい地平を切り拓いていると考えられた。

当該書籍の出版により、当初の予定通りかそれ以上の成果をあげることができたと考える。インタビュー対象者への確認も、十分に行うことができた。また、今のところ評判が良く、大変ありがたいと考えている。現時点では新型コロナウイルスの影響もあり配本が進んでおらず、8月末まで店頭に並んでいない本屋もある。Amazonにおいても8月末配達となっている。したがって、本格的な書評等は今後出版されると考えている。不測の事態により事業延長を重ねてしまったことは改善点であると考えが、竹田本人には予測できなかった部分もある。寛大な対応を行ってくださった竹村和子フェミニズム基金事務局の方々に改めて御礼申し上げます。

7. 提出成果物

7月31日発売の単著『「生きられる」アート—パフォーマンス・アート《S/N》とアイデンティティ』（ナカニシヤ出版、2020年）

（参考 URL: <http://www.nakanishiya.co.jp/book/b525173.html>）